Journal of the Research Institute for
Old Japanese Manuscripts of Buddhist Scriptures
Vol. VIX 2024

日本古写経研究所研究紀要　第九号（令和６年）

大谷大学図書館所蔵『秘密儀軌集』について

前島信也

About "*Himitsu Giki Shu* 秘密儀軌集: Secret Rituals Collection" owned by Otani University Library

Shinya Maejima

This paper focus on the 15 volumes of the Edo-period manuscripts "*Himitsu Giki Shu* 秘密儀軌集: Secret Rituals Collection" owned by the Otani University Library.

These texts are consist of esoteric Buddhist scriptures and rituals, and some of them can be reduced to the esoteric section of the *Taisho Shinshu Tripitaka* 大正新脩大蔵経（volumes 19 to 21）and the *Dainippon Zokuzokyo* 大日本続蔵経. But they include still unknown in modern edition.

In this paper, I have provided an overview of the "*Himitsu Giki Shu*" based on the results of survey, discussed its origins and transmission, and presented the following conclusions.

A. "*Himitsu Giki Shu*" has a different content from other "*Himitsu Giki* 秘密儀軌: Secret Rituals" published in Japan. Furthermore, the name "*Himitsu Giki Shu*" is not written on the manuscript, and it is unclear what is the origin of the title was based on.

B. The "*Himitsu Giki Shu*" is a collection of esoteric Buddhism texts that were copied from the collection of Shoren-in Temple 青蓮院 between 1718 and 1727.

C. Among the original copies held at Shoren-in Temple, the Kissui-zo 吉水蔵 collection was particularly used.

D. Of the 38 titles included in the "*Himitsu Giki Shu*" 11 have not been printed in modern editions and only exist at Shoren-in Temple.

E. The "*Himitsu Giki Shu*" was originally kept in the Keito-in Temple 雞頭院 in Tosotsu-dani 都卒谷, Mt. Hiei 比叡山, but it was moved to another unidentified location and was later acquired by Otani University.

大谷大学図書館所蔵『秘密儀軌集』について

前島信也

本論では大谷大学図書館所蔵の江戸期写本『秘密儀軌集』十五冊を取り上げる。この資料は密教経典・儀軌で構成されており、その多くは大正新脩大蔵経の密教部（巻第十九～二十一）、『大日本続蔵経』に還元できるが、未翻刻の典籍も多数含まれている。本論では『秘密儀軌集』を調査した結果から全体を概観し、その底本と伝来について論じる。議論が煩雑となるため、あらかじめ結論を提示する。

一、この『秘密儀軌集』は、他の日本で出版された「秘密儀軌」とは異なる。また『秘密儀軌集』の名称は写本上には記されておらず、何に基づいて付されたかは不明である。

二、『秘密儀軌集』は享保三（一七一八）～享保十二（一七二七）の間に青蓮院所蔵本を底本として書写された密教典籍群である。

三、底本の青蓮院所蔵本は特に吉水蔵本が使用されている。

四、『秘密儀軌集』に収録される典籍三十八本のうち、十一本は青蓮院に孤本として伝存する未翻刻資料である。

五、『秘密儀軌集』は元々比叡山都率谷の雞頭院に所蔵されていたが流出し、後に大谷大学に所蔵されたものである。

以上の点について、実地調査に基づいた書誌情報を提示したうえで明らかにする。

経緯

この資料調査の経緯は、七寺一切経内の録外文献『毘沙門天王秘密蔵王呪経』に関連して、大谷大学図書館蔵本を調査したことによる[1]。現存の七寺一切経『毘沙門天王秘密蔵王呪経』は首欠のため正式な名称を確認することができず、入蔵経典である『毘沙門天王経[2]』として扱われていたが、内容の調査により『毘沙門天王秘密蔵王呪経』であることが確認できた。この経典は『仏書解説大辞典』にも採録されており、大谷大学図書館所蔵の叢書「秘密儀軌集」（余大・三七六九）に収録されていることから、実地調査を行い、その結果として叢書全体を発表するに至ったものである。

秘密儀軌

この『秘密儀軌集』は全十五巻、計三十八本の典籍が収録されている。「秘密儀軌」とは密教の経典に説かれる仏、菩薩及び天部等の造像、念誦、供養に関する儀式軌則であり、単に「儀軌」ともいう。『仏書解説大辞典』では、日本で出版された「秘密儀軌」を五種提示する。

①本儀軌（録内儀軌）…一百八十七部、三百二十四巻
②十五経…十五部十七巻
③四部儀軌…四部十一巻
④享保儀軌…六十七部七十二巻
⑤享和儀軌…四十四部四十八巻

『仏書解説大辞典』上では大谷大学所蔵の「秘密儀軌集」は②の写本と記載されるが、その内容は明らかに異なっており、管見の限り大谷大学本に類似する「秘密儀軌」という資料は確認できていない。加えて叢書全体を確認しても、「秘密儀軌集」という名称はどこにも確認できず、大谷大学に所蔵される際に付された名称であると推定される。

収録する典籍は以下の通りである。なお、一冊に複数の典籍が収録されることがあるため、管理番号として典籍ごとに「巻数―当該巻における序数」を半角アラビア数字で付している。また、典籍名は原則首題を示すが、尾題などで異なる名称が付されている場合、（　）で提示した。

巻第一：01-01仏説大威徳転輪王一字心陀羅尼経
巻第二：02-01北方毘沙門天王随軍護法儀軌（北方毘沙門天随軍護法儀軌）
02-02仏説毘沙門天王秘密蔵王呪経（仏説毘沙門経）
02-03金剛童子持念経（大忿怒金剛童子持念誦供養儀軌）
02-04大自在天法則儀軌
02-05妙吉祥速疾成就大羅刹美女諸法中秘密心所随成就法
02-06審蔵天女陀羅尼法（審蔵天女法）
巻第三：03-01播那[3]曩結使波（唐云歩擲）金剛念誦儀（歩擲金剛修行儀軌）
巻第四：04-01馬頭観世音摂毒陀羅尼法（馬頭観世音菩薩陀羅尼法）
04-02千手千眼観世音菩薩治病合薬経（千手千眼観世音菩薩療治病合薬経）
巻第五：05-01仏説普遍焔鬘清浄熾盛思惟寶印心無勝惣持随求大明陀羅尼自在陀羅尼功能
巻第六：06-01摂無礙大悲心大陀羅尼経計一法中出無量義南方満願補陀落海会五部諸尊等弘誓力方位及威儀形色執持三摩耶幟幟曼荼攞儀軌（補陀落海会諸尊位略出威儀形色）
巻第七：07-01摂一切仏頂輪王如来念誦法
07-02大菩提心随求陀羅尼一切仏心真言法
07-03文殊師利菩薩六字呪功能法経（文殊師利菩薩六字呪法）
巻第八：08-01最上乗瑜伽秘密三摩地修本尊悉地建立曼拏攞儀（曼拏攞儀軌）
08-02証成妙法白蓮華経王八葉蓮華上湧出寶塔中両足婆誐鑁八大菩薩等及三重方壇三摩耶眷属妙威儀形色満願会方位幟幟曼荼攞入平等大会成就法華三昧現世入初地決定証菩提法経（法華曼荼攞威儀形色法経）
巻第九：09-01金剛頂普賢瑜伽大教王経大楽不空金剛薩埵一切時方成就儀（普賢瑜伽経大楽金剛薩埵成就儀軌）
09-02疫神歓喜陀羅尼経
09-03仏説却温黄神呪経

巻第十：10-01五大明王義[4]
10-02観自在菩薩阿麼𩜁法
10-03釈迦牟尼如来拔除苦悩現大神変飛空大鉢法（空鉢儀軌）
10-04金剛頂瑜伽蓮花部心念誦儀中略集開鑰要妙印
巻第十一：11-01仏説呪媚経
11-02宿曜護摩祀[5]火法
巻第十二：12-01大聖妙吉祥菩薩説除災教令法輪（大聖妙吉祥菩薩説除災教令法輪軌儀、熾盛光仏頂儀軌）
巻第十三：13-01大毘盧遮那仏眼修行儀軌（毘盧遮那仏眼修行儀軌）
巻第十四：14-01最上乗教授戒懺悔文
14-02新集浴像軌儀（浴像儀軌）
14-03白傘蓋大仏頂王最勝無比大威徳金剛無碍大道場陀羅尼略念誦法要（白傘蓋仏頂法、白傘蓋仏頂瑜伽秘密要略念誦法合則上）
14-04馬頭像法
14-05仏説寿延経
14-06浄口業真言（加句霊験尊勝陀羅尼）
巻第十五：15-01金剛薬叉嗔怒王息災大威神験念誦儀軌（金剛薬叉瞋怒息災大威神験念誦儀軌）
15-02甘露軍荼利大威怒王念誦儀軌
15-03金剛頂秘密最勝教王降三世極秘密法要
15-04降三世忿怒明王念誦儀軌

書誌情報

書誌情報については「大谷大学図書館古典籍データベース[6]」上に詳しい。それを元に、実地調査した内容を踏まえ、以下のように整理を行なった。

【凡例】

・首題や識語では原則新字を使用したが、「宝・寶・寶・審」などはそのまま翻刻している。また判読不能箇所は□で示した。
外題：表紙に記される書名。ただしここでは表紙に見られるそのほかの情報も提示した。
首題：本文の初めに記される書名。但し複数の典籍が含まれる場合は最初の典籍のみを示した。
尾題：本文の最後に記される書名。但し複数の典籍が含まれる場合は最後の典籍のみを示した。
書形：当該資料の形体。
丁数：当該資料の紙数のこと。なお、表紙・裏表紙の見返が剝離している場合はそれを数えない。
行数・字数：半丁あたりの行数と一行あたりの文字数。典籍ごとに異なる場合は、管理番号を付して示した。
法量：当該資料の縦×横（センチ）。
字面高：当該資料の本文が記される範囲。縦×横（センチ）。典籍によって異なる場合は適宜提示した。
印記：印の位置、印の種類、「印の内容」を提示する。なお、複数存在する場合は頭に丸番号を付した
書込：各収録典籍における本文以外の書き込みを、色とその内容を示した。
識語：各収録典籍における識語を「位置、色」を示した上で提示。複数存在する場合は頭に丸番号を付した。
備考：その他書誌学的情報について示した。

【巻第一】

外題：（ナシ、但し表紙左下朱書「一」、右下墨書「智」、右上蔵書票「余大／3769／15」）

首題：仏説大威徳転輪王一字心陀羅尼経

尾題：（ナシ）

書形：袋綴装四ツ目綴

丁数：三十五丁

行数・字数：半丁七行十四字～十六字

法量：二三・四×一六・五

字面高：一四・七×一一・七

印記：①二丁オ、墨印「□□□□（墨塗により判読不能）」

②二丁オ、朱書陽刻「大谷文庫」

③二丁オ、朱書陽刻「真宗大学黌図書」

④裏表紙見返、「余大／3769／15」

書込：01－01朱書（合点・識語）

識語：01－01・三十五丁ウ・朱書

①右一字心陀羅経借慧潤本写経末恐有脱文後生得／善本按讐于時享保十二丁未九月沙門慧脈書

備考：・表紙と裏表紙の見返剝離。剝離部分紙背に墨書「大威徳転輪王一字心陀羅尼経」

・本文上部に空白あり。底本の形式に沿ったか。

・背と下部小口に墨書で巻数を記している。

【巻第二】

外題：（ナシ、但し表紙左下朱書「二」、表紙右下墨書「智」、表紙右上蔵書票「余大／3769／15」）

首題：北方毘沙門天王随軍護法儀軌

尾題：審蔵天女法

書形：袋綴装四ツ目綴

丁数：四十二丁

行数・字数：半丁七行十四字～十六字

法量：二三・三×一六・六

字面高：二〇・〇×一三・二

印記：①一丁オ、墨書「□□□蔵（墨塗により一部判読不能）」

②一丁オ、朱書陽刻「大谷文庫」

③一丁オ、朱書陽刻「真宗大学黌図書」

④四十二丁オ、「余大／3769／15」

書込：02－01墨書（訓点・仮名・注・異本注記）、朱書（仮名・注記）

02－02朱書（注・異本注記）

02－03墨書（訓点・仮名・注）、朱書（注）

02－04墨書（訓点・仮名・注）、朱書（区切点・注）

02－05墨書（訓点・仮名・注）、朱書（区切点・注）

識語：02－01・三丁ウ・墨書

①右随護軍法与二楓渓教王院本一対校スルニ是非互ニ有リ因テ以レ墨／傍ニ書レ之令レ便ニ拝閲一／

寶暦五乙亥冬十月十日於洛東陵崎之信天館記／無障金剛真流

02－03・二十七丁オ・墨書

②本批云応徳二年四月廿二日以前唐院(7)別策子(8)本勘合了

③元永二年十二月十八日以三昧阿闍梨御本書了

④長永（承カ）三年三月六日於青蓮坊伝受大教房　金剛仏子行玄

⑤享保三年十月十六日以洛東青蓮院経庫之本書了一校加点　万谷

⑥寶暦六丙子之歳伝授之次校訂之加傍訓呪之右添国字了真流

02－05・三十九丁ウ・墨書

⑦長承二年正月廿一日以故三昧阿闍梨本書之写了

備考：・表紙見返に巻第二所収の『審蔵天女陀羅尼法』を除く五巻の書名が記されている。

・背と下部小口に墨書で巻数を記している。

・表紙と裏表紙の見返剝離。

・『北方毘沙門天王随軍護法儀軌』の首題下部に墨書「行」、『金剛童子持念経』の首題下部に墨書「仁」、『大自在天法則儀軌』の首題下部に墨書「仁」「行」、『審蔵天女陀羅尼法』の首題下部に墨書「運」。

・訳者不空の記載が蔵書印を避けて記されていることから、印記が捺された後に記されたと考えられる。

【巻第三】

外題：（ナシ、但し表紙左下朱書「三」、表紙右下墨書「智」、表紙右上蔵書票「余大／3769／15」）

首題：播那曩結使波［唐云歩擲］金剛念誦儀

尾題：歩擲金剛修行儀軌一巻

書形：袋綴装四ツ目綴

丁数：十丁

行数・字数：半丁七行十四字～十六字

法量：二三・五×一六・八

字面高：一八・二×一二・二

印記：①一丁オ、墨書陽刻「□□院蔵（擦消により一部判読不能）」

②表紙見返の紙背・一丁オ、朱書陽刻「大谷文庫」

③一丁オ、朱書陽刻「真宗大学黌図書」

④裏表紙見返、「余大／3769／15」

書込：墨書（訓点・仮名）、（朱書）ヲコト点[9]、仮名、一部注

識語：03－01・十丁オ・墨書

①宝暦六丙子五月廿八日附訓点了寓居南禅沙門真流

03－01・十丁ウ・朱書

②元永二年七月三日於青蓮房以三昧阿闍梨――金剛仏子良実

③久寿元年十一月廿四日　出羽[10]――奉受

④承久二年正月七日――奉受　道覚

03－01・十丁ウ・墨書

⑤享保三戊戌年冬以洛東青蓮院蔵本写　沙門恵脈

備考：・表紙と裏表紙の見返は剝離。

・背と下部小口に墨書で巻数を記している。

【巻第四】

外題：（ナシ、但し表紙左下朱書「四」、表紙右下墨書「智」、表紙右上蔵書票「余大／3769／15」）

首題：馬頭観世音摂毒陀羅尼法

尾題：千手千眼観世音菩薩療治病合薬経

書形：袋綴装四ツ目綴

丁数：三十三丁

行数・字数：半丁七行十二字

法量：二二・三×一六・四

字面高：一四・〇×一一・四

印記：①一丁オ、墨書陽刻「□頭院蔵（擦消により一部判読不能）」

②一丁オ、朱書陽刻「大谷文庫」

③一丁オ、朱書陽刻「真宗大学黌図書」

④裏表紙見返、「余大／3769／15」

書込：04－01（ナシ）、04－02朱書（異本注記）

識語：04－01・十五丁オ・墨書

①大治二年五月廿九日以三昧阿闍梨御本書了／一校了

04－01・十五丁オ・朱書
②享保十二丁未秋借恵潤写
04－02・三十三丁オ・墨書
③天承二年閏四月廿一日伝借三井寺本一校了／以朱付異本是也
04－02・三十三丁オ・朱書
④享保十二丁未冬書写　恵脈
備考：・背と下部小口に墨書で巻数を記している。
・表紙と裏表紙見返は剝離。剝離紙背部に墨書「馬頭儀軌」とある。
・冊子内に表紙から剝離したと考えられる題箋の挟み込みあり。
・墨書と朱書添削された天保二年（一八二五）書写、鴻洲撰の「華厳山最法寺釣鐘供養表白」の一紙（二八・三×四〇・〇）あり。
・「千手千眼観世音菩薩治病合薬経」の袋とじ部分に、書写の際の検討事項を紙片に記したものが多数挟み込まれている。
・本文上部に空白あり。底本の形式に沿ったか。

【巻第五】

外題：（ナシ、但し表紙左下朱書「五」、表紙右下墨書「智」、表紙右上蔵書票「余大／3769／15」あり）
首題：仏説普遍焔鬘清浄熾盛思惟寶印心無勝惣持随求大明陀羅尼自在陀羅尼功能
尾題：（ナシ）
書形：袋綴装四ツ目綴
丁数：六十六丁
行数・字数：半丁七行十三字
法量：二二・三×一六・四
字面高：一三・二×一二・〇
印記：①一丁オ、墨書陽刻「□□院蔵（擦消により判読不能）」
②一丁オ、朱書陽刻「大谷文庫」
③一丁オ、朱書陽刻「真宗大学黌図書」
④裏表紙見返、「余大／3769／15」
書込：（ナシ）
識語：（ナシ）
備考：・表紙と裏表紙の見返が剝離。
・本文上部に空白あり。底本の形式に沿ったか。
・背と下部小口に墨書で巻数を記している。

【巻第六】

外題：（ナシ、但し表紙左下朱書「六」、表紙右下墨書「智」、表紙右上蔵書票「余大／3769／15」とある）
首題：摂無礙大悲心大陀羅尼経計一法中出／無量義南方満願補（草冠）陀落海会五／部諸尊等弘誓力方位及威儀形色／執持三摩耶幟幟曼荼攞儀軌　一但呪／讃及　／　一作法宣視／大儀軌内
尾題：補（草冠）陀落海会諸尊位略出威儀形色
書形：袋綴装四ツ目綴
丁数：四十一丁
行数・字数：半丁七行十三字
法量：二三・三×一六・四
地面高：一四・五×一二・〇
印記：①一丁オ、墨書陽刻「□頭院蔵（擦消により一部判読不能）」
②一丁オ、朱書陽刻「大谷文庫」
③一丁オ、朱書陽刻「真宗大学黌図書」
④裏表紙見返「余大／3769／15」
書込：（ナシ）
識語：06－01・四十一丁ウ・朱書
①享保十二丁未秋写

備考：・表紙と裏表紙の見返は剝離。
・本文上部に空白あり。底本の形式に沿ったか。
・背と下部小口に墨書で巻数を記している。

【巻第七】

外題：（ナシ、白紙題箋のみあり、また表紙左下朱書「七」、表紙右下墨書「智」、表紙右上蔵書票「余大／3769／15」とある）
首題：摂一切仏頂輪王如来念誦法
尾題：文殊師利菩薩六字呪法一巻
書形：袋綴装四ツ目綴
丁数：二十四丁
行数・字数：半丁十行二十字
法量：二三・四×一六・四
字面高：一九・〇×一三・〇
印記：①表紙見返、墨書陽刻「□□院蔵（擦消により一部判読不能）」
②一丁オ、朱書陽刻「大谷文庫」
③一丁オ、朱書陽刻「真宗大学黌図書」
④裏表紙見返、「余大／3769／15」
書込：07－01墨書（訓点・仮名・注）、朱書（注）
07－02墨書（訓点・仮名・注）、朱書（訓点・仮名・注）
07－03墨書（訓点・仮名・注・異本注記）、朱書（訓点・仮名・注）
識語：07－02・二十丁ウ・墨書
①本批云元永二年（歳次／巳亥）六月十一日書之件本云以前唐院本比校了／校合畢　金剛仏子良実
②天承元年五月廿三日従大教房伝受了
③時享保第三龍集戊戌壬十月下浣為令法弘通以青蓮院御経庫之本写得之了／一校粗点了　万谷
07－03・二十四丁ウ・墨書
④永禄（保カ）四年二月八日書写了
⑤応徳元年九月廿日以谷御本点交了
⑥同年同月同日於谷御房伝受了　勝豪
備考：・表紙と裏表紙の見返は剝離。
・表紙見返にこの冊子に収録する三本の書名あり。
・背と下部小口に墨書で巻数を記している。

【巻第八】

外題：（ナシ、但し表紙左下朱書「八」、表紙右下墨書「智」、表紙右上蔵書票「余大／3769／15」とある）
首題：最上乗瑜伽秘密三摩地修本尊悉地建立曼拏攞儀
尾題：法華曼荼攞威儀形色法経
書形：袋綴装四ツ目綴
丁数：三十四丁
行数・字数：半丁七行十四字
法量：二三・三×一六・三
字面高：一三・七×一一・四
印記：①一丁オ、墨書陽刻「□□□蔵（擦消により一部判読不能）」
②一丁オ、朱書陽刻「大谷文庫」
③一丁オ、朱書陽刻「真宗大学黌図書」
④裏表紙見返、「余大／3769／15」
書込：08－01朱書（注記）、08－02墨書（注記・異本注記）、朱書（訓点・区切点・注記・異本注記）
識語：08－01・十七丁オ・墨書
①以故三昧阿闍梨御本書了／一交畢
08－01・十七丁オ・朱書

②右建立曼拏攞儀借東山青蓮院蔵本写時／享保十二丁未冬沙門慧脈謹書
（「沙門慧脈謹」は墨で塗り消し）
08-02・三十四丁オ・墨書
③天治元年四月二十一日書畢
④大治三―七月十三四日之間於中御門京極壇所伝借三井寺本／移点了
金剛仏子良実
⑤本ハ雖以爾之波加点(11)令本房点(12)移成之
⑥件本云承保四―五月十二日以法輪院本書点了／批謬多端ハ証本可交勘
之　信慶記了
08-02・三十四丁オ・朱書
⑦享保十二丁未冬書写　苾芻慧脈
備考：・表紙と裏表紙の見返は剝離。
・剝離し破損した題箋の挟み込みあり。
・本文上部に空白あり。底本の形式に沿ったか。
・背と下部小口に墨書で巻数を記している。

【巻第九】

外題：（ナシ、但し表紙左下朱書「九」、表紙右下墨書「智」、表紙右上蔵書票「余大／3769／15」とある）
首題：金剛頂普賢瑜伽大教王経大楽不空金剛薩埵一切時方成就儀
尾題：仏説却温黄神呪経
書形：袋綴装四ツ目綴
丁数：十九丁
行数・字数：09-01半丁七行十五字、09-02半丁七行十七字、09-03半丁七行十二字
法量：二三・三×一六・四
字面高：一四・五×一二・〇
印記：①一丁オ、墨書陽刻「□□院蔵（擦消により一部判読不能）」
②一丁オ、朱書陽刻「大谷文庫」
③一丁オ、朱書陽刻「真宗大学黌図書」
④裏表紙見返「余大／3769／15」
書込：09-01朱書（合点・注・識語）、09-02墨書（注）、
09-03墨書（仮名・注・異本注記）、朱書（声点・識語）
識語：09-01・十一丁ウ・墨書
①應徳元年九月廿八日辰尅於桂林房以前唐／院唐本伝写了　件唐本千手
儀軌在／諦耳　良―記之／二校了
09-01・十一丁ウ・朱書
②享保十二丁未秋借慧潤僧正本写／釈慧脈
09-02・十四丁オ・墨書
③寛治二年八月廿三日未時於但州書畢尊恵
09-03・十九丁オ・墨書
④以葛川蔵本対校了（擦り消し）／
以葛川蔵(13)本対校了
09-03・十九丁オ・朱書
⑤享保十二丁未秋借慧潤本写　沙門慧脈
備考：・表紙と裏表紙は剝離。
・剝離した墨書題箋「普賢瑜伽経大楽金剛薩埵成就儀軌／疫神歓喜陀羅尼
経　仏説却温黄神呪経」の挟み込みあり。
・本文上部に空白あり。底本の形式に沿ったか。
・背と下部小口に墨書で巻数を記している。

【巻第十】

外題：（ナシ、但し表紙左下朱書「十」、表紙右下墨書「智」、表紙右上蔵書票「余大／3769／15」とある）

首題：五大明王義
尾題：（ナシ）
書形：袋綴装四ツ目綴
丁数：四十五丁
行数・字数：10－01・10－03・10－04半丁七行十四字、10－02半丁七行十三字
法量：二三・三×一六・四
字面高：一三・八×一一・三
印記：①一丁オ、墨書陽刻「□□院蔵（擦消により一部判読不能）」
②一丁オ、朱書陽刻「大谷文庫」
③一丁オ、朱書陽刻「真宗大学黌図書」
④裏表紙見返「余大／3769／15」
書込：10－01墨書（注記）、朱書（識語）
10－02朱書（注記）
10－03墨書（注記）、朱書（注記・識語）
10－04朱書（注記・識語）
識語：10－01・十七丁オ・墨書
①長承二年二月廿九日以故三昧阿闍梨本／書了／三度校合
10－01・十七丁オ・朱書
②享保十二丁未冬写
10－02・二十六丁オ・墨書
③天承元年十月十五日以小野阿闍梨本／誂筆者書畢／同日於灯下校了
10－02・二十六丁オ・朱書
④享保十二丁未年写
10－03・三十丁ウ・墨書
⑤承久二年正月七日於／無動寺奉随大乗院僧正和尚／御房奉受了　道覚
10－03・三十丁ウ・朱書
⑥享保十二丁未冬写
10－04・四十五丁オ・墨書
⑦長承二年五月十二日以故三昧阿闍梨本／書了
⑧件本云應徳元―八月一日午尅以唐院所／御本写了／同二年四月十六日以前唐院葉子本／彩梵字幷校合了　良ネ／二校了
10－04・四十五丁オ・朱書
⑨享保十二丁未秋九月借悉地僧正慧潤本命玄仲写／原本写誤多後生得善本訂正　沙門慧脈
備考：・表紙と裏表紙の見返剝離。表紙の見返紙背に墨書「五大明王義」、裏表紙見返紙背に墨書「阿麼麟法」。
・本文上部に空白あり。底本の形式に沿ったか。
・五大明王義、自在菩薩阿麼麟法、書写の際に記したと考えられる紙片の挟み込みあり。
・背と下部小口に墨書で巻数を記している。

【巻第十一】

外題：（ナシ、但し表紙左下朱書「十一」、表紙右下墨書「智」、表紙右上蔵書票「余大／3769／15」とある）
首題：仏説呪媚経一巻
尾題：宿曜護摩祀火法
書形：袋綴装四ツ目綴
丁数：二十七丁
行数・字数：半丁七行十三字（11－01）、半丁七行十四字（11－02）
法量：二三・四×一六・四
字面高：一三・五×一一・五
印記：①一丁オ、墨書陽刻「□□院蔵（擦消により一部判読不能）」
②一丁オ、朱書陽刻「大谷文庫」
③一丁オ、朱書陽刻「真宗大学黌図書」

④裏表紙見返「余大／3769／15」
書込：11－01墨書（注記）、朱書（注記・識語）、11－02墨書（仮名）、朱書（注記）
識語：11－01・十二丁オ・墨書
①天治二年十月卅日於四条壇所以三昧阿闍梨／御本写了
11－01・十二丁オ・朱書
②享保十二丁未冬写
11－02・裏表紙見返・朱書
③享保十二丁未冬書写
備考：・表紙と裏表紙の見返は剝離。表紙の紙背に墨書「呪媚経」とある。
・本文上部に空白あり。底本の形式に沿ったか。
・背と下部小口に墨書で巻数を記している。

【巻第十二】
外題：（ナシ、但し表紙左下朱書「十二」、表紙右下墨書「智」、表紙右上蔵書票「余大／3769／15」とある）
首題：大聖妙吉祥菩薩説除災教令法輪
尾題：大聖妙吉祥菩薩説除災教令法輪軌儀
書形：袋綴装四ツ目綴
丁数：三十七丁
行数・字数：半丁六行十二字
法量：二三・三×一六・四
字面高：一三・二×一一・〇
印記：①一丁オ、墨書陽刻「□□院蔵（擦消により一部判読不能）」
②一丁オ、朱書陽刻「大谷文庫」
③一丁オ、朱書陽刻「真宗大学黌図書」
④裏表紙見返「余大／3769／15」
書込：墨書（訓点・仮名・注記）、朱書（仮名・注記・異本注記）
識語：12－01・三七丁オ・墨書
①永暦三年[14]三月九日於智妙房奉受了
②天喜四年六月廿八日於大原勝林院奉受了
③右以葛川蔵本校合
12－01・三十七丁ウ・朱書
④享保十二丁未冬写　慧脈
12－01・三十七丁ウ・墨書
⑤予拝閲之次傍加訓点文字誤脱甚多間有草書難取解者／後得善本必訂之
寶暦六丙子林鐘祇園神祭祀之日真流記
備考：・表紙と裏表紙の見返は剝離、表紙見返紙背に墨書「妙吉祥菩薩説除災教令法輪」とある。
・破損し剝離した題箋の挟み込みあり。
・本文上部に空白あり。底本の形式に沿ったか。
・背と下部小口に墨書で巻数を記している。

【巻第十三】
外題：（ナシ、但し表紙左下朱書「十三」、表紙右下墨書「智」、表紙右上蔵書票「余大／3769／15」とある）
首題：大毘盧遮那仏眼修行儀軌
尾題：毘盧遮那仏眼修行儀軌
収録資料：13－01大毘盧遮那仏眼修行儀軌
書形：袋綴装四ツ目綴
丁数：二十二丁
行数・字数：半丁六行十二字
法量：二三・四×一六・四
字面高：一三・七×一一・五

印記：①一丁オ、墨書陽刻「□□院蔵（擦消により一部判読不能）」
②表紙見返紙背、朱書陽刻「大谷文庫」
③一丁オ、朱書陽刻「真宗大学黌図書」
④裏表紙見返「余大／3769／15」
書込：13－01墨書（訓点・仮名・注記）、朱書（注記）
識語：13－01・二十二丁オ・朱書
①十一月八日以三光房(15)本点校了／勝豪
13－01・二十二丁オ・墨書
②承久二年五月七日／随太子院奉受了／道覚
③此軌文字磨滅不可附訓者多矣後人得善本必再校訂／宝暦丙子六月十三日真流謹記
備考：・表紙と裏表紙の見返は剥離。
・底本上で判読不能の箇所を空白としている。
・本文上部に空白あり。底本の形式に沿ったか。
・背と下部小口に墨書で巻数を記している。

【巻第十四】

外題：（ナシ、但し表紙左下朱書「十四」、表紙右下墨書「智」、表紙右上蔵書票「余大／3769／15」とある）
首題：最上乗教授戒懺悔文
尾題：（ナシ）
書形：袋綴装四ツ目綴
丁数：二十七丁
行数・字数：半丁十行二十文字
法量：二三・三×一六・四
字面高：14－01一六・五×一三・〇、14－02二〇・〇×一三・八、14－03一八・五×一三・五、14－04一八・五×一三・三、14－05一八・五×一三・〇、14－06一八・五×一三・〇
印記：①表紙見返、墨書陽刻「□□□□（擦消により一部判読不能）」
②一丁オ、朱書陽刻「大谷文庫」
③一丁オ、朱書陽刻「真宗大学黌図書」
④裏表紙見返「余大／3769／15」
書込：14－01墨書（注記）、朱書（注記）
14－02墨書（訓点・仮名・注記）、朱書（注記）
14－03墨書（訓点・仮名・注記）、朱書（合点・注記）
14－04墨書（訓点・仮名）、朱書（区切点・注記）
14－05墨書（訓点・仮名）、朱書（注記）
14－06墨書（訓点・仮名・注記）、朱書（注記）
識語：14－01・四丁オ・墨書
①應徳元年九月十五日於桂林房以前唐院唐本／伝写了　良祐
14－02・九丁オ・墨書
②長承元年十二月十六日於南円房以故三昧阿闍梨御本奉写／筆者雅祐／二校了／同三年正月八日以但列聖人本移点了
14－03・二十丁オ・墨書
③元永二年歳次己亥七月廿三日書之／同廿八日以師本校畢　金剛仏子良実
14－04・二十二丁ウ・墨書
④長永（承カ）元年十二月廿五日故三昧阿闍梨本於南円房行俊令書了／件本云以横川忍辱本写了　二校了
14－06・二十七丁オ・墨書
⑤長承元年十二月十七日於南円房以故三昧阿闍梨御本／以中納言公令書畢／件本云写本云以唐摺本写之云云／二校了
備考：・表紙と裏表紙の見返は剥離。
・表紙見返に収録目録あり。

・背と下部小口に墨書で巻数を記している。

【巻第十五】

外題：（ナシ、但し表紙左下朱書「十五」、表紙右下墨書「智」、表紙右上蔵書票「余大／3769／15」とある）

首題：金剛薬叉嬢怒王息災大威神験念誦儀軌

尾題：降三世忿怒明王念誦儀軌

書形：袋綴装四ツ目綴

丁数：十五丁

行数・字数：15－01半丁十行二十一文字、15－02～04半丁十行二十文字

法量：二三・四×一六・四

字面高：一九・七×一三・〇

印記：①表紙見返、墨書陽刻「□□院蔵（擦消により判読不能）」

②裏表紙見返「余大／3769／15」

書込：15－01墨書（訓点・仮名・注記・異本注記）、朱書（訓点・仮名・注記・異本注記）

15－02墨書（仮名）・朱書（注記）

15－03墨書（訓点・仮名・注記）、朱書（注記）

15－04墨書（訓点・仮名・注記・異本注記）、朱書（区切点・注記）

識語：15－01・六丁ウ・墨書

①已上朱書他本住不退地之次有之

②永保二年六月四日以谷御本点了

③――三年四月二日於谷房奉読了　勝豪

15－03・十二丁ウ・墨書

④師云此五支法也

備考：・表紙と裏表紙の見返は剝離。

・表紙見返に収録目録あり。

・大谷大学の所蔵印が無いが、他巻の蔵書票の書き直し部分を考えるならば、整理後に追加されたために生じたものと考えられる。

・背と下部小口に墨書で巻数を記しているが、下部小口のみ「十六」となっている。

以上が全十五冊の書誌情報である。以下、資料から確認できる底本・人物・伝来について適宜提示する。

底　本

ここでは『秘密儀軌集』が何を底本として書写されたかを検討する。全三十八本のうち、まず「大正新脩大蔵経」（以下「大正蔵」）に所収される二十本の典籍を示す。併せて大正蔵に使用された底本（★を付す）・側本、および『仏書解説大辞典』（改訂再版、大東出版社）、『国書総目録』（補訂版、岩波書店）などに確認できるその他現存本の所在を示す。

管理番号	名称〈異称〉	正蔵巻数	底本（書写年代）	その他（書写年代）
02-01	北方毘沙門天王隨軍護法儀軌 〈北方毘沙門天隨軍護法儀軌〉	21	★豊山大学（一七一六～一七三六）	宝寿院（一一三三） 吉水蔵28函10（一一一九）
02-03	金剛童子持念経 〈大忿怒金剛童子持念誦供養儀軌〉	21	★東寺宝菩提院（一三四〇）	吉水蔵26函1（一一一九） 曼殊院（足利時代）
02-06	審蔵天女陀羅尼法 〈審蔵天女法〉	21	★豊山大学（一七一六～一七三六）	吉水蔵28函13（一一二五）
03-01	歩擲金剛修行儀軌 〈播那（般）曩結使波金剛念誦儀〉	21	★豊山大学（一七一六～一七三六） 仁和寺（平安期写）	宝寿院（一一四二） 吉水蔵25函19（一一一九）
04-02	千手千眼観世音菩薩治病合薬経 〈千手観音治病合病経〉〈千手合薬経〉	20	★豊山大学（一七一六～一七三六） 高山寺（一一三一）	吉水蔵22函18（一一三二）
06-01	摂無礙大悲心大陀羅尼経計一法中出無量義南方満願補陀落海会五部諸尊等弘誓力方位及威儀形色執持三摩耶幟幟曼荼攞儀軌 〈補陀落海会諸尊位略出威儀形色〉	20 続1	★豊山大学（一七一六～一七三六） 高山寺（？）	吉水蔵23函16（平安末）
07-03	文殊師利菩薩六字呪功能法経 〈文殊師利菩薩六字呪法〉	20	★豊山大学（一七一六～一七三六） 東寺三密蔵本（一一六〇） 高山寺本（一一四九）	吉水蔵21函7（一〇七七～八一）
08-02	証成妙法白蓮華経王八葉蓮華上湧出寶塔中両足婆誐鑁八大菩薩等及三重方壇三摩耶眷属妙威儀形色満願会方位幟幟曼荼攞入平等大会成就法華三昧現世入初地決定証菩提法経 〈法華曼荼羅威儀形色法経〉	19	★宝寿院（？）	吉水蔵30箱9（一一二八）
09-01	金剛頂普賢瑜伽大教王経大楽不空金剛薩埵一切時方成就儀 〈普賢瑜伽経大楽金剛薩埵成就儀〉	20 続2	★日本続蔵経	吉水蔵21函20（一〇八四）

09-03	仏説却温黄神呪経	続1	★日本続蔵経？ 吉水蔵17函8（平安期）
10-02	観自在菩薩阿麼齮法	20	★仁和寺（平安期） 東寺 吉水蔵22函17（一一三一）
10-03	釈迦牟尼如来拔除苦悩現大神変飛空大鉢法 〈空鉢儀軌〉	続2	★日本続蔵経 吉水蔵17函15（一二二〇）(18)
11-01	仏説呪媚経	85	★S・四一八 S・二五一七 吉水蔵16函10（一一二五） 七寺一切経(17)
12-01	大聖妙吉祥菩薩説除災教令法輪 〈大聖妙吉祥菩薩説除災教令法輪軌儀〉〈熾盛光仏頂儀軌〉	19	★豊山大学（一七一六～一七三六） 宝寿院（九八七？） 石山寺 吉水蔵21函2（平安期七三六）(16)
13-01	大毘盧遮那仏眼修行儀軌	19	★豊山大学（一七一六～一七三六） 仁和寺（一一二三） 高山寺（？） 吉水蔵23函6（一一一四） 曼殊院（一一二八） 立正大学（？）
14-01	最上乗教授戒懺悔文	18	高麗版 黄檗版 吉水蔵34函5（一〇八四） 他多数
14-02	新集浴像軌儀	21	★豊山大学（一七一六～一七三六） 高山寺（一〇五九） 吉水蔵16函19（一一三二）
14-03	白傘蓋大仏頂王最勝無比大威徳金剛無碍大道場陀羅尼略念誦法要 〈白傘蓋仏頂法〉〈白傘蓋仏頂瑜伽秘密要略念誦法合則上〉〈法華曼荼羅威儀形色法〉	19	★豊山大学（一七四四～一七四八） 高山寺（？） 吉水蔵18函11（一一一九）
15-01	金剛薬叉嬢怒王息災大威神験念誦儀軌 〈金剛薬叉瞋怒息災大威神験念誦儀軌〉	21	★豊山大学（一七一六～一七三六） 仁和寺（一〇九〇） 東寺（？） 吉水蔵24函19（一〇八五） 宝菩提院（？）
15-04	降三世忿怒明王念誦儀軌	21	★豊山大学（一七一六～一七三六） 高山寺（一一五二） 仁和寺（平安期） 東寺（一一二二） 吉水蔵81函15（一一五〇、一一一九） 叡山文庫（？）

大正蔵所収本の多くは、豊山大学（現大正大学）所蔵本を底本とし、高山寺・仁和寺・東寺などを側本として使用する。そして大正蔵では参照されていないものの、その大半が青蓮院吉水蔵に所蔵を確認できる。

次いで、大正蔵以外の叢書に翻刻されるものは以下の二本である。

二／三八

管理番号	名称〈異称〉	叢書	底本（書写年代）	その他（書写年代）
07-01	摂一切仏頂輪王如来念誦法〈摂眼毒女抄〉	弘法大師諸弟子全集中	東寺宝菩提院（一一五八）	京大本（？） 善通寺本（？）
10-01	五大明王義[19]	弘法大師全集	石山寺（一一五七） 宝菩提院（一七四四） 神光院（一七二九）	高野山大学（鎌倉期） 龍谷大学（？） 吉水蔵26箱9（一一三三）

『秘密儀軌集』における『摂一切仏頂輪王如来念誦法』には他本後半に収録する「仏眼如来念誦」が確認できない。『五大明王義』乙本は、石山寺・宝菩提院・神光院を底本とするが、他機関所蔵の高野山大学本・龍谷大学本・吉水蔵は甲本・乙本の区別ができないため、判断することができない。

そして管見の限り未翻刻のものが以下の通りである。

一六／三八

管理番号	名称〈異称〉	所蔵（書写年代）
01-01	仏説大威徳転輪王一字心陀羅尼経	吉水蔵18函4（一〇五九）
02-02	仏説毘沙門秘密蔵王呪経〈仏説毘沙門経〉	七寺一切経（院政期） 吉水蔵27函18（一〇八八）
02-04	大自在天法則儀軌	東寺宝菩提院（？） 高山寺（？） 吉水蔵28函6（一一〇八）
02-05	妙吉祥速疾成就大羅刹美女諸法中秘密心所随成就法	吉水蔵29函6（一一三三）
04-01	馬頭観世音摂毒陀羅尼法〈馬頭儀軌〉〈馬頭観世音菩薩陀羅尼法〉	東寺宝菩提院（？） 吉水蔵22函13（一一二七）
05-01	仏説普遍焔鬘清浄熾盛思惟宝印心無勝惣持随求大明陀羅尼自在陀羅尼功能	吉水蔵23函20
07-02	大菩提心隨求陀羅尼一切仏心真言法	吉水蔵22函9（一一一九）
08-01	最上乗瑜伽秘密三摩地修本尊悉地建立曼拏攞儀〈曼拏攞儀軌〉	吉水蔵17函9（？）
09-02	疫神観喜陀羅尼経	吉水蔵27函19（一〇八八）
10-04	金剛頂瑜伽蓮花部心念誦儀中略集開鑰要妙印	該当なし
11-02	宿曜護摩祀火法	吉水蔵29函17（平安中期）

14-04	馬頭像法	吉水蔵22函21（一一三三）
14-05	仏説寿延経	吉水蔵16函1（一〇九二）
14-06	浄口業眞言〈加句霊験仏頂尊勝陀羅尼〉	吉水蔵19函6（一一三三）
15-02	甘露軍荼利大威怒王念誦儀軌	吉水蔵木箱2函23（平安期）
15-03	金剛頂秘密最勝教王降三世極秘密法要	高野山宝寿院（鎌倉期） 吉水蔵25函16（一一一八）

十六本中十五本が吉水蔵、うち十一本は吉水蔵のみに確認できる。ほか大正蔵本と同様に東寺宝菩提院、宝寿院に一致する資料、そして七寺本に一致する資料が確認できる。10-04のみ、管見の限りでは類似資料を確認できていない。巻末資料の備考では、当該資料の名称が確認できる目録を提示しているが、『勘定前唐院見在書目録』『前唐院法文新目録』『入唐新求聖教目録』[20]に確認できる典籍02-04、05-01、07-02、10-04など、平安初期の目録に確認できるものも多数含まれることに注目される。

以上、翻刻未翻刻にかかわらず、ほぼすべてを青蓮院吉水蔵に還元できることが確認できた。

識語

次に『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』を参照し、『秘密儀軌集』と吉水蔵所蔵資料の識語部分との比較・検討を行う。以下、『秘密儀軌集』と吉水蔵の識語と一致する部分に傍線を施した。（次ページ比較表参照）

まず、比較資料が存在しない二本（07-01、10-04）を除いた三十六本のうち、二十四本が吉水蔵の識語の一部と共通する。そして一致しない識語と残りの十二本は江戸期の識語、もしくは識語自体が無い。ここから書写者によって識語自体が省略されたことが推定でき、吉水蔵を底本として書写したこと自体に矛盾はない。よって、全体を通じて吉水蔵本には江戸期の識語は含まれておらず、この写本自体の書写識語であると判断できる。

これらの点と、吉水蔵本のみに確認できる典籍を共有している点から、この『秘密儀軌集』は江戸期に吉水蔵本を底本として書写されたものと結論づけられる。

また、平安・鎌倉期の識語には「伝受」「伝授」「奉受」した典籍であることが多く示されている（次頁比較表、網掛部分参照）。これらは書写・伝受場所を明記する形式であることからも、講義や相伝といった形で書写されていたことが推察される。

管理番号	『秘密儀軌集』識語	吉水蔵本識語[21]
01-01	①右一字心陀羅経借慧潤本写経末恐有脱文後生得／善本校讎于時享保十二丁未九月沙門慧脈書	（奥書）康平二―四―十八―申□以唐院本写了　一件本奥不足可求／他本―
02-01	①右随護軍法与二楓渓教王院本一対校スルニ是非互ニ有リ因テ以レ墨／傍ニ書レ之令レ便ニ拝閲一／寶暦五乙亥冬十月十日於洛東陵崎之信天館記／無障金剛真流	（奥書）元永二年　己亥　十月十六日夜参半／於灯下書了／無動寺大乗房是／其処也／迺刻校畢／（後筆）「承久二年正月七日於無動寺／奉随大乗院僧正首尾伝受／了　道覚」
02-02	（ナシ）	（奥書）寛治二年八月九日未時書畢　尊恵 （朱書）『同日酉時移点了　同七月二十六日辰時奉受了』
02-03	②本批云應徳二年四月廿二日以前唐院別策子本勘合了 ③元永二年十二月十八日以三昧阿闍梨御本書了 ④長永（承カ）三年三月六日於青蓮坊伝受大教房　金剛仏子行玄 ⑤享保三年十月十六日以洛東青蓮院経庫之本書了一校加点　万谷 ⑥寶暦六丙子之歳伝授之次校訂之加傍訓呪之右添国字了真流	（奥書）元永二年十二月十八日以三昧阿闍梨／御本書了 （本奥書）本云應徳二年四月廿二日以前唐院／別策子本勘合了 （追筆）「一　校畢」 （別筆）「長承三年三月六日於青蓮房伝受大教房／了　金剛仏子行玄」
02-04	（ナシ）	（奥書）（朱書）天仁二年二月二十九日於二条房三昧阿闍梨／奉読了勝豪
02-05	⑦長承二年正月廿一日以故三昧阿闍梨本書写了	（奥書）長承二年正月廿二日以故三昧阿闍梨本書写了 （追筆）「二校了」
02-06	（ナシ）	（奥書）天治二年七月九日於四条烏丸壇所以三昧阿闍梨／御本書了
03-01	①宝暦六丙子五月廿八日附訓点了寓居南禅沙門真流 ②元永二年七月三日於青蓮房以三昧阿闍梨――金剛仏子良実 ③久寿元年十一月廿四日　出羽――奉受 ④承久二年正月七日――奉受　道覚 ⑤享保三戊戌年冬以洛東青蓮院蔵本写　沙門恵脈	（奥書）（朱書）『元永二年七月三日於青蓮房以三昧阿闍梨御本移点了　金剛仏子良実』 同三十日挑燭従大教房伝受了／同聴大輔公 （別筆）「久寿元年十一月廿四日□阿ゝ奉受／円性」 （後筆）「承久二年正月七日／随大乗房御房／首尾奉受了／道覚」

管理番号	『秘密儀軌集』識語	吉水蔵本識語[21]
04-01	①大治二年五月廿九日以三昧阿闍梨御本書了／一校了 ②享保十二丁未秋借惠潤写	（奥書）大治二―九月廿九日以三昧阿闍梨御本／書了 （追筆）一校了
04-02	③天承二年閏四月廿一日伝借三井寺本一校了／以朱付異本是也 ④享保十二丁未冬書写　恵脈	（奥書）（朱書）『天承二―閏四月廿一日伝借三井寺本一校了／以朱付異本是也』
05-01	（ナシ）	（ナシ）
06-01	①享保十二丁未秋写	（ナシ）
07-01	（ナシ）	（当該書ナシ）
07-02	①本批云元永二年　歳次／己亥　六月十一日書之件本云以前唐院本比校了／校合畢　金剛仏子良実 ②天承元年五月廿三日従大教房伝受了／ ③時享保第三龍集戊戌壬十月下浣為令法弘通以青蓮院御経庫之本写得之了／一校粗点了　万谷	（奥書）元永二年　歳次己亥　六月十一日書之　件書本者以唐本比校了／校合畢／金剛仏子良実 （別筆）「天承元年五月廿三日従大教房伝受了」
07-03	④永禄四年二月八日書写了 ⑤応徳元年九月廿日以谷御本点交了 ⑥同年同月同日於谷御房伝受了　勝豪	（奥書）永保四年二月八日書写了 （朱書）『応徳元年九月廿日以谷御本点交了』 （別筆）「同年同月同日於谷御房伝受了　勝豪」 （後筆一）「建長五年正月二十日奉随青蓮院僧正御房奉受了／道玄」 （後筆二）「建保五年十一月十五日随大乗院僧正奉受
08-01	①以故三昧阿闍梨御本書了／一交畢 ②右建立曼拏攞儀借東山青蓮院蔵本写時／享保十二丁未冬沙門慧脈謹書（「沙門慧脈謹」は墨で塗り消し）	（奥書）以故三昧阿闍梨御本書了 （追筆）「一交畢」

08-02	③天治元年四月二十一日書畢 ④大治三―七月十三四日之間於中御門京極壇所伝借三井寺本／移点了　金剛仏子良実 ⑤本ハ雖以爾之波加点令本房点　移成之 ⑥件本云承保四―五月十二日以法輪院本書点了／批謬多端ハ証本可交勘之　信慶記了／ ⑦享保十二丁未冬書写　苾芻慧脈	（奥書）天治元年四月二十一日書畢 （朱書）『大治三―七月十三四日之間於中御門京極壇所伝借三井寺本移点了 金剛仏子良実／本ハ雖以爾之波加点令本房点移成之 件本云承保四―五月十二日以法輪院本書点了／批謬多端以証本可交勘之／ 信慶記之』
09-01	①応徳元年九月廿八日辰尅於桂林房以前唐／院唐本伝写了件唐本千手儀軌在／諦耳　良―記之／一挍了 ②享保十二丁未秋借慧潤僧正本写／釈慧脈	（奥書）大歴三年八月十四日西京青龍寺／僧願力書写梵漢字記[22] 本云／応徳元年九月廿八日辰尅於桂林房以前唐／院唐本伝写了件唐本千手 儀軌在／端耳　良―記之 （追筆）一挍了
09-02	③寛治二年八月廿三日未時於但州書畢尊恵	（奥書）寛治二年八月廿三日未時於但州書畢　尊恵
09-03	④以葛川蔵本対校了（擦り消し）以葛川蔵　本対校了 ⑤享保十二丁未秋借慧潤本写　沙門慧脈	（ナシ）
10-01	①長承二年二月廿九日以故三昧阿闍梨本／書了／三度挍合 ②享保十二丁未冬写	（奥書）長承二年二月廿九日以故三昧阿闍梨本／書了 （追筆）三度校合
10-02	③天承元年十月十五日以小野阿闍梨本／誂筆者書畢／同日於灯下挍了 ④享保十二丁未年写	（奥書）天承元年十月十五日以小野阿闍梨本／誂筆者書畢／同日於灯下校了
10-03	⑤承久二年正月七日於／無動寺奉随大乗院僧正和尚／御房奉受了　道覚 ⑥享保十二丁未冬写	（奥書）（後筆）「承久二年五月七日於／無動寺奉随大乗院僧／正和尚御房奉受了／道覚」
10-04	⑦長承二年五月十二日以故三昧阿闍梨本／書了 ⑧件本云應徳元―八月一日午尅以唐院所／御本写了／同二年四月十六日以前唐院葉子本彩梵字幷挍合了　良ネ／二挍了 ⑨享保十二丁未秋九月借悉地僧正慧潤本命玄仲写原本写誤多後生得善本訂正　沙門慧脈	（当該資料ナシ）
11-01	①天治二年十月卅日於四条壇所以三昧阿闍梨／御本写了 ②享保十二丁未冬写	（奥書）天治二年十月卅日於四条壇所以三昧阿闍梨／御本写了
11-02	③享保十二丁未冬書写	（ナシ）

管理番号	『秘密儀軌集』識語	吉水蔵本識語[21]
12-01	①永暦三年三月九日於智妙房奉受了 ②天喜四年六月廿八日於大原勝林院奉受了 ③右以葛川蔵本校合 ④享保十二丁未冬写　慧脈 ⑤予拝閲之次傍加訓点文字誤脱甚多間有草書難取解者／後得善本必訂之　寶暦六丙子林鐘祇園神祭祀之日真流記	（奥書）（別筆三）「承暦三年三月九日於智妙房奉受了経親」 天喜四年六月廿八日於大原勝林院奉受了／朝範 （別筆二）「本点大略同伝本仍□点者也」 （朱書）『□厳本写之』
13-01	①十一月八日以三光房　本点校了／勝豪 ②承久二年五月七日／随太子院奉受了／道覚 ③此軌文字磨滅不可附訓者多矣後人得善本必再校訂／宝暦丙子六月十三日真流謹記	（奥書）（朱書）『康和二年十一月八日以三光房本点交了／勝豪』 （朱書）『（元永元年）六月六日於高辻（御房）奉読了／□』
14-01	①応徳元年九月十五日於桂林房以前唐院唐本／伝写了　良祐	（奥書）応徳元年九月十五日於桂林房以前唐院／唐本伝写了　良祐
14-02	②長承元年十二月十六日於南円房以故三昧阿闍梨御本奉写／筆者雅祐／二校了／同三年正月八日以但列聖人本移点了	（奥書）（別筆）長承元年十二月十六日於南円房以故三昧阿闍梨御本奉写了 筆者雅祐 （追筆一）二校了 （追筆二）同三―正月八日以但州聖人本移点了
14-03	③元永二年歳次己亥七月廿三日書之／同廿八日以師本校畢　金剛仏子良実	（奥書）元永二年歳次己亥七月廿三日書了 （朱書）『同廿八日以師本校畢／金剛仏子良実』
14-04	④長永（承カ）元年十二月廿五日故三昧阿闍梨本於南円房行俊令書了／件本云以横川忍辱本写了　二校了	（奥書）長承元年十二月廿五日以故三昧阿闍梨本／於南円房以行俊令書了 （本奥書）件本云以横川忍辱本写了（追筆）二校了
14-05	（ナシ）	（奥書）寛治六年十一月一日卯時奉書畢　比丘尊恵
14-06	⑤長承元年十二月十七日於南円房以故三昧阿闍梨御本／以中納言公令書畢／件本云写本云以唐摺本写之云云／二校了	（奥書）長承元年十二月十七日於南円房以故三昧／阿闍梨御本以中納言公令書／畢 （本奥書）件本云写本云／以唐摺本写之云云 （追筆）二校了

15-01	①已上朱書他本住不退地之次有之 ②永保二年六月四日以谷御本点了 ③――三年四月二日於谷房奉読了　勝豪	（奥書）永保元年十月廿四日為求法者書之了 （追筆）「永保二年六月四日以谷御本点了」 （朱書）『永保三年四月二日於谷房奉読了　勝豪』 （別筆）「伝受了　良実」 （後筆一）「建保四年十月廿日随大乗院僧正奉受了道覚」 （後筆二）「建長五年十月十九日奉随青蓮院／僧正御房重奉受了／金剛仏子道玄」
15-02	（ナシ）	（ナシ）
15-03	④師云此五支法也	（朱書）『師云此五支法也』 元永元年六月廿三日以三昧／阿闍梨御本書了 （朱書）『同日同本移点畢／金剛仏子良実元永元年六月十五日於高辻御房以師本／伝受了』
15-04	（ナシ）	（奥書）元永二年七月四日於青蓮房以三昧阿闍梨／御本移点了　金剛仏子良実 本云承略二年四月十五日奉点了墨点也／□点也 （別筆一）「建保四年十月十六日随大乗院僧正奉受了／道覚」 （別筆二）「建長五年十月十一日奉随青蓮院僧正御房重奉受了　金剛仏子道玄」

人　物

次にこれら『秘密儀軌集』識語に確認できる人物名について確認する。整理すると以下のとおりである。

【三昧阿闍梨】（02-03、03-01、04-01、08-01、10-01、10-04、11-01、14-01、14-02、14-04、14-06）

→良祐（?～一〇八七～一〇九四～?）。天台密教三昧流の祖。皇慶阿闍梨[23]の甥。安慶・長宴より受法し、東塔北谷桂林房に住する。後に常行三昧堂の結衆となり、三昧阿闍梨と呼ばれる。識語の中では「三昧阿闍梨本」を底本に書写したという記述に多く確認できる。09-01「良-」、10-04「良ネ」とある場合も応徳年間の識語であることから、良祐を指すと考えられる。

【勝豪】（07-03、13-01、15-01）

↓『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』解説によれば、『尊卑分脈』から、正四位下摂津守藤原資宗の子で、青蓮房法印と号したとある。一〇六〇～？（久安年中〈一一四五～一一五一〉没とも）。吉水蔵には書写・伝授した資料が多数残存しており、谷流の正統である皇慶・安慶の嗣法、良祐から三昧流の印信を受けており、谷流のすべてを継承した人物である。[24]

【尊恵】（09-02）

↓不明。ただし、『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』を確認するに、『秘密儀軌集』巻第二『毘沙門秘密蔵王呪経』の底本など、計五冊に書写者として名前があり、寛治二（一〇八八）から三（一〇八九）の間に書写を行なっていた人物であることがわかる。

【大教房】（02-03、07-02）

↓平清盛の異母弟である平教盛の男で慈円・玄理に師事した忠快が「大教房」と呼ばれるが、ここの識語から行玄に伝授した人物であるため、時代が合わない。『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』で山本氏は皇慶・長宴・良祐の付法を受けた「最厳」であると推定する。

【金剛仏子行玄】（02-03、〈良実〉03-01、07-02、08-02、14-03）

↓『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』解説によれば、行玄は摂政関白藤原師実の子。承徳元（一〇九七）～久寿二（一一五五）。天台座主寛慶の弟子。天承元年（一一三一）に「良実」から「行玄」に改めた。第三十六代座主・忠尋、法性寺座主・勝豪の受法弟子となり、比叡山良祐に灌頂を受ける。保延四（一一三八）に天台座主となる。時期は不明ながら、勝豪から青蓮房を引き継いで青蓮院門跡第一世となり、ほかに寛慶から無動寺・横川三昧院、良祐から桂林房を引き継いでいる。年代、表記的にも金剛仏子良実（03-01、07-01、08-02、14-03）は行玄であると考えられ、元永二（一一一九）～長承三（一一三四）の無記名の識語の大半は行玄のものであると考えられる。[25]

【小野阿闍梨】（10-02）

↓真言宗の一流、小野流の始祖である聖寶尊師、もしくは仁海を指すか。詳細不明。但し『昭和現存天台書籍綜合目録』にこの識語と近しい識語を有する写本が複数ある。[26]

【大乗院僧正和上】（10-03）

↓藤原忠通の子であり、歌人でもあった慈鎮和尚慈円。久寿二（一一五五）～嘉禄元（一二二五）。後鳥羽天皇の子である道覚親王（後述）の師であり、道覚が幼少の頃から青蓮院門跡の後継者と定めて、多く伝授をおこなっていた。[27] この識語では道覚に伝受した人物として示されるのみである。

【雅祐】（14-02）

↓不明。但し『昭和現存天台書籍綜合目録』[28]『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』[29]に書写者として例を確認。「行玄」と次の「行俊」とも識語の表記・書写時期が一致するため、この時期に三昧阿闍梨本の書写を目的としたグループが作られていたか。

【行俊】（14－04）

↓不明。但し『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』では、ほか二箇所に書写者として名前を確認[30]。先の「行玄」「雅祐」と書写時期、識語の表記が一致するため、三昧阿闍梨所持本の書写を目的としたグループが作られ、その一人として書写に参加していたか。

【信慶】（08－02）

↓不明。『昭和現存天台書籍綜合目録』等にも該当なし。

【道覚】（03－01、10－03、13－01）

↓元久元（一二〇四）～建長二（一二五〇）。後鳥羽天皇の皇子。慈円・慈賢・真性に天台を学び、浄土宗・証空から浄土教を受けた。青蓮院門跡を経て、宝治元（一二四七）に天台座主となる。翌年無動寺、三昧院検校を兼ねる。先述のように、早くから慈円に後継者として認められており、数多くの伝授本が現存する。この三本も承久二年の伝受であることから、慈円からの伝受本であると考えられる。

【慧潤】（01－01、04－01、09－01、09－03、10－04）

↓不明。『昭和現存天台書籍綜合目録』では、現在天海蔵に所蔵される書籍の中に宝永二（一七〇五）～享保三（一七一八）に書写者として多く名前が挙げられる[31]。『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』には確認できず[32]。『秘密儀軌集』の識語は書写者識語ではなく、慧潤所持本からの書写であることが示されるのみであるため、慧潤が書写者である蓋然性は低い。

【万谷】（02－03、07－02）

↓不明。『昭和現存天台書籍綜合目録』には正徳・享保年間に書写者として多数名前が挙げられる[33]。『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』では確認できず。

【沙門慧脈】（01－01、03－01、04－02、08－01、08－02、09－01、09－03、10－04、12－01）

↓『昭和現存天台書籍綜合目録』には正徳年間前後に書写者として名前を見ることができる。『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』には無し。正徳六年慧脈書写の『常住金剛私記』には「都卒谷禅定院慧脈」とある[34]。ここから『横川堂舎並各坊世譜』（『天台宗全書』二十四、一六八上）の「都卒谷禅定院」の第九世に慧脈の名前がある。美濃の生まれで、元は「智濤」と号し宝永四（一七〇七）に禅定院に入り、正徳二（一七一二）に「慧脈」に改名したとある。

【玄仲】（10－04）

↓不明。『昭和現存天台書籍綜合目録』『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』でも確認できず。慧潤所持本を底本に享保十二という他の書写時期と一致することから、慧脈の指示によってこの時期にまとめて書写をおこなった人物群のひとりかと考えられる。

【但列】（14－02）

↓不明。なお09－02や『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』では「但州」としてお

『秘密儀軌集』識語における年代表

	V1	V2-1	V2-2	V2-3	V2-4	V2-5	V2-6	V3	V4-1	V4-2	V5	V6	V7-1	V7-2
十一世紀														
				応徳二（1085） 勘合：前唐院										
十二世紀				元永二（1119） 底本：三昧阿闍梨本				元永二（1119） 底本：三昧阿闍梨本 ？：良実						元永二（1119） 校合本：前唐院 校合：良実
									大治二（1127） 底本：三昧阿闍梨本					
				長承三（1134） 伝授：行玄		長承二（1133） 底本：三昧阿闍梨本				天承二（1132） 校合：三井寺本				天承元（1131） 伝受：大教房
								久寿元（1154） 奉受：？						
十三世紀								承久二（1220） 奉受：道覚						
十八世紀				享保三（1718） 底本：青蓮院本 書写・加点：万谷				享保三（1718） 書写：慧脈						享保三（1718） 底本：青蓮院本 書写・加点：万谷
	享保十二（1727） 底本：慧潤本 書写：慧脈								享保十二（1727） 底本：慧潤本	享保十二（1727） 書写：慧脈		享保十二（1727） 書写：？		
		宝暦五（1754） ？：真流		宝暦六（1755） 加点：真流				宝暦六（1755） 加点：真流						

	V7-3	V8-1	V8-2	V9-1	V9-2	V9-3	V10-1	V10-2	V10-3	V10-4	V11-1
十一世紀	永保四（1084） 書写：？ 応徳元（1084） 校合：？ 伝受：勝豪	？ 底本：三昧阿闍梨本	永保四（1084） 校合底本：法輪院本 校合：信慶	応徳元（1084） 底本：前唐院 書写：良—	寛治二（1088） 書写：尊慧	？ 底本：葛川蔵本 校合：？				応徳元（1084） 底本：唐院 書写：？ 応徳二（1085） 底本：前唐院 書写：良—	
十二世紀			天治元（1124） 書写：？ 大治三（1128） 校合底本：三井寺本 移点：良実				長承二（1133） 底本：三昧阿闍梨本 書写・校合：？	天承元（1131） 底本：小野阿闍梨本 書写・校合：？		長承二（1133） 底本：三昧阿闍梨本	天治二（1125） 底本：三昧阿闍梨本 書写：？
十三世紀									承久二（1220） 伝受：道覚		
十八世紀		享保十二（1727） 底本：青蓮院蔵本 書写：慧脈	享保十二（1727） 書写：慧脈	享保十二（1727） 底本：慧潤 書写：慧脈		享保十二（1727） 底本：慧潤 書写：慧脈	享保十二（1727） ？	享保十二（1727） ？	享保十二（1727） ？	享保十二（1727） 底本：恵潤本 書写：玄仲 校合：慧脈	享保十二（1727） 書写：？

	V11-2	V12	V13	V14-1	V14-2	V14-3	V14-4	V14-5	V14-6	V15-1	V15-2	V15-3	V15-4
十一世紀		天喜四（1056） 伝受：？											
			? 底本：三光房本 校合：勝豪	応徳元（1084） 底本：前唐院本 書写：良祐						永保四（1082） 校合底本：谷御本 読：勝豪			
十二世紀						元永二（1119） 底本：師本 書写・校合：良実							
					長承元（1132） 底本：三昧阿闍梨本 書写：雅祐 校合底本：但馬聖人本 移点：？		長承元（1132） 底本：三昧阿闍梨本 書写：行俊 底本：横川忍辱本		長承元（1132） 底本：三昧阿闍梨本 底本：唐摺本					
		永暦三（1162） 伝受：？											
十三世紀			承久二（1220） 伝受：道覚										
		? 校合底本：葛川蔵本											
十八世紀	享保十二（1727） 書写：？	享保十二（1727） 書写：慧脈											
		宝暦六（1755） ？：真流	宝暦六（1755） ？：真流										

り、誤写と考えられる。築島氏は但馬阿闍梨永圓を指すかとする。[35]『昭和現存天台書籍綜合目録』では確認できず。

【無障金剛真流】（02－01、02－03、03－01、12－01、13－01）

↓正徳元（一七一一）～?。安永二（一七七三）までは生存。比叡山・横川禅定院智濤のもとで天台を学ぶ。安楽律を批判したが、のちに比叡叡山から追放。京都南禅寺の一草庵に隠れ六十余歳で没する。南禅沙門真流。『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』には確認できないが、『昭和現存天台書籍綜合目録』には著作を含め、多くの書写があることを確認。ただしその中に、03－01に記されるような「南禅沙門」という表現はなし。

これらを書写の識語の年記と併せて示すと前頁の表のようになる。

まず「書写時期」が江戸期の書写であることは示したが、最も初期のものは「万谷」と「慧脈」が享保三年に書写したことが始まりであると考えられる。そしてその九年後、享保十二年の識語が大半となっている。ここでは「万谷」の名前は無く「慧脈」のみとなるが、10－04のように「玄仲」に書写をさせている識語もあることから、おそらく「慧脈」を中心とした書写グループが形成されたものと考えられる。そして最も新しい識語である宝暦五・六の「真流」の識語は、慧脈書写本に対して訓点を移点・加点したものと考えられ、書写年代は変わらないものと判断できる。

また底本の多くは「三昧阿闍梨」所持本（12／38、吉水蔵の識語を踏まえるならば16／38）であり、さらにその六割は行玄（良実）、もしくはそのグループ（雅祐・行俊）が書写したものである。しかし、これらの典籍はいわゆる三昧流聖教ではなく、『三昧流聖教目録』（『大日本仏教全書』目録部二）にもそれらの典籍名を確認することはできない。加えて『秘密儀軌目録』（『大日本仏教全書』目録部一）に収録するものと十一種が一致しており、青蓮院吉水蔵の密教典籍を広く書写・収集したものであると判断せざるを得ない。

伝　来

次に『秘密儀軌集』の伝来について検討する。全十五冊の各書冒頭には塗り潰し、もしくは刷り消された墨書蔵書印を確認できる。墨跡からこの墨印には「雞頭院蔵」と記されていたものと判断できる。雞頭院については『横川堂舎並各坊世譜』[36]から元は本住房と称した寺院であると考えられる。第二世「栄源」の項に「文禄二年（一五九三）」とあるため、安土桃山時代前後に成立し、第八世「厳覚」の項に「正徳元（一七一一）」とあるため、『秘密儀軌集』の書写時期よりも少し前の時期までは確認できる。この第八世厳覚の名前は『阿沙縛抄』や『行林抄』にその書写者として「山門横川都卒谷雞頭院厳覚」として複数箇所に確認できるため、[37]雞頭院とは横川都卒谷に存在していた寺院であることが確認できる。また、書写者の中心人物であった「慧脈」も「都卒谷禅定院」に住していたことから、この地域で書写されたものが、保管もしくは共有されたものと考えられる。

雞頭院に所蔵されていた典籍は多く現存し、早稲田大学図書館蔵教林文庫にも雞頭院に蔵されていた資料がふくまれている。[38]以上のことから、当時の都率谷の雞頭院・禅定院は台密文献の収集に努めており、『秘密儀軌集』も

	題名	訳者・著者	活字・翻刻	解説（大谷大学図書館古典籍データベースから引用）	備考
巻第一					
01-01	仏説大威徳転輪王一字心陀羅尼経	菩提留志 訳	（ナシ）	（北魏）菩提流支訳。大威徳転輪王心大陀羅尼について説述したもの。陀羅尼の価値功徳を比較解剖し、後に専ら誦呪の秘法とその効験について詳細に教説している。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	・『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』（『青蓮院目録』）一八函に名称確認。
巻第二					
02-01	北方毘沙門天王隨軍護法儀軌（北方毘沙門天随軍護法儀軌）	不空 訳	正蔵二一	（唐）不空訳。毘沙門天王の孫、那吒太子の儀軌。仏法護持・悪人降伏・国界護持の為に自心暴悪真言を説き、次に画像法・護摩法を説く。平安前期の真言宗の僧円行の請来とされる。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	・『毘沙門天王随軍護法儀軌』、『毘沙門随軍法』とも。 ・『昭和天台書籍綜合目録』（『天台目録』）七七六頁上に名称確認。『青蓮院目録』二七函に名称確認。 ・長承二年書写本を宝寿院に確認。 ・『諸阿闍梨真言密教部類総録』（『八家秘録』）、『秘密儀軌目録』などに名称確認。 ・『行林抄』に名称確認。
02-02	仏説毘沙門秘密蔵王呪経（仏説毘沙門経）	三蔵法師恵情 訳	本誌成果報告にて翻刻	救脱菩薩の発した毘沙門天王護世者の因縁についての問いに対し、仏が天王秘密蔵王呪を教説したもの。呪を十万遍誦することに因り五十五の勝利を獲得すること、或いはその誦数、功徳、天王の現前衛後の験力等について詳述している。訳者恵情の詳細は不明。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	・『天台目録』七七五頁下に寛治二年の尊慧による書写本を確認。『青蓮院目録』二七函に名称確認。 ・「七寺一切経」に同本確認。 ・『薄草子口訣』に名称確認。
02-03	金剛童子持念経（大忿怒金剛童子持念誦供養儀軌）	—	正蔵二一	末法利益、現悉地相、得聞持、得財宝、差毒難、除怖畏、除毘那夜迦障等の為に修する金剛童子法を説いた経典。訳者不詳。平安前期の天台宗の僧円仁の請来とされる。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	・『天台目録』七七二頁上に元永二年の書写本を確認。 ・『勘定前唐院見在書目録』『前唐院法文新目録』『入唐新求聖教目録』『八家秘録』に名称確認。 ・『行林抄』に名称確認。

巻第三				
03-01	02-06	02-05	02-04	
播那曩結使波金剛念誦儀（歩擲金剛修行儀軌）	審蔵天女陀羅尼法（審蔵天女法）	妙吉祥速疾成就大羅刹美女諸法中秘密心所随成就法	大自在天法則儀軌	
—	—	—	仁行　編	
正蔵二一	正蔵二一	（ナシ）	（ナシ）	
歩擲金剛を本尊とする歩擲金剛法を説いたもの。その修法はほぼ十八種の印契からなる供養法の構造をとる十八道立になっており、終わりに本尊の図像法を説く。訳者不詳。平安前期の真言宗の僧宗叡による請来と伝わる。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	福徳の神で吉祥天・弁財天と同一視される宝蔵天女の呪と壇法・画像法・八真言・玉環印について説いたもの。訳者不詳。奈良時代の渡来僧恵雲の請来とされる。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	—	障碍困難等の意を有し、常随魔と義釋される毘那夜迦天の説く法則を叙述したもの。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	
・『天台目録』七七四頁下に良実までの奥書が一致する本を確認。『青蓮院目録』二五函に名称確認。 ・『新書写請来法門等目録』『禅林寺宗叡僧正目録』『八家秘録』に名称確認。	・『天台目録』七八四頁下に天治二年の書写本を確認。『青蓮院目録』二八函に名称確認。 ・『恵運律師書目録』B『八家秘録』『東寺金剛蔵聖教目録』に名称確認。 ・『秘密儀軌目録』に名称確認。	・『青蓮院目録』二九函に、『大羅刹美女法』として確認。『天台目録』八一〇頁上に確認。 ・目録、古典籍データベース上では採録されていない。 ・『恵運律師書目録』B『八家秘録』に名称確認。	・『天台目録』八一一頁中に天仁二年の勝豪による書写本を確認。『青蓮院目録』二八函に名称確認。 ・建久八年写（宝菩提院）、谷大にあり。 ・高山寺蔵（第一一五箱七三号）にあり。（出典：松本光隆「高山寺蔵儀軌資料における書入注の諸相」（『高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集』、二〇〇八） ・『霊厳寺和尚請来法門道具等目録』『勘定前唐院見在書目録』『前唐院法文新目録』『入唐新求聖教目録』『新書写請来法門等目録』『八家秘録』に名称確認。 ・『行林抄』に名称確認。	

	巻第四		巻第五	巻第六	巻第七
	04-01	04-02	05-01	06-01	07-01
題名	馬頭観世音摂毒陀羅尼法 （馬頭儀軌） （馬頭観世音菩薩陀羅尼法）	千手千眼観世音菩薩治病合薬経 （千手千眼観世音菩薩療治病合薬経） （千手観音治病合薬経／千手合薬経）	仏説普遍焔鬘清浄熾盛思惟寶印心無勝惣持隨求大明陀羅尼自在陀羅尼功能	摂無礙大悲心大陀羅尼経計一法中出無量義南方満願補陀落海会五部諸尊等弘誓力方位及威儀形色執持三摩耶幟幟曼荼攞儀軌 （補陀落海会諸尊位略出威儀形色）	摂一切仏頂輪王如来念誦法
訳者・著者	般若蜜多　訳	西天竺國三蔵伽梵達摩　訳	—	不空　訳	仁海？／真然？　編
活字・翻刻	（ナシ）	正蔵二〇	（ナシ）	正蔵二〇 続蔵一・三・二	『弘法大師諸弟子全集』中
解説（大谷大学図書館古典籍データベースから引用）	（唐）般若蜜多訳。馬頭明王の陀羅尼法を説術したもの。呪の誦持による治毒法などを詳しく説示し、終わりに明王の形と差毒の法を記す。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	（唐）伽梵達摩訳。仏が阿難に対し、観世音菩薩の広大円満無礙大悲心陀羅尼神呪について、実際の病気をあげ陀羅尼による治療法四十余種を説いたもの。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	大隨求陀羅尼経の功徳や修法などについて記したもの。釈尊と菩薩たちによる問答や、（唐）惟勤の『大隨求懺悔法』などを載せる。撰者不詳。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	（唐）不空訳。大曼荼羅五部諸尊等の威儀形色法を説いたもの。初めに手印について偈頌で述べ、次いで息災・増益・降伏・敬愛・鉤召の五種法に五部の本尊を配した五部尊法を説き、最後に各法の曼荼羅ならびに各尊の形像等を偈頌で示している。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	仏頂部諸尊の中で最尊最勝にして、仏頂部諸尊の徳を該摂する摂一切佛頂輪王如来の念誦法について述べたもの。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。
備考	・外題下に「開元八年十一月十一日訳」とある。 ・宝菩提院に「馬頭観世音菩薩陀羅尼法」という典籍を確認。同一経典の可能性あり。 ・『天台目録』七一一頁下、『青蓮院目録』二二函に名称確認。 ・『大日経疏指心鈔』『大楽経顕義抄』『行林抄』『金界発恵抄』『阿娑縛抄』『白宝抄』に名称確認。	・『天台目録』七〇七頁上に良実までの奥書が一致する本を確認。『青蓮院目録』二二函に名称確認。 ・『八家秘録』『秘密儀軌目録』に名称確認。 ・『行林抄』『要尊法』に名称確認。	・『青蓮院目録』二三函に「隨求陀羅尼功能」として確認。 ・『勘定前唐院見在書目録』『前唐院法文新目録』『入唐新求聖教目録』『八家秘録』に名称確認。 ・『白宝口抄』に名称確認。	・『摂無碍経』『補陀落海会軌』などとも。 ・『天台目録』七〇四頁下、『青蓮院目録』二三函。 ・『正蔵』二〇、『続蔵』一・三・二。底本は豊山大学高山寺。 ・『秘密儀軌目録』に名称確認。 ・『覚禅抄』『図像集』	・『摂眼毒女』とも言うか。 ・諸本として「善通寺本」「京大本」「谷大本」「三宝院本」あり。 ・『行林抄』『玄秘抄』『薄草子口決』などに名称確認。

巻第八			
08-02	08-01	07-03	07-02
証成妙法白蓮華経王八葉蓮華上湧出寶塔中両足婆誐鑁八大菩薩等及三重方壇三摩耶眷属妙威儀形色満願会方位幟幟曼荼攞入平等大会成就法華三昧現世入初地決定証菩提法経 （法華曼荼羅威儀形色法経）	最上乗瑜伽秘密三摩地修本尊悉地建立曼拏攞儀 （曼拏攞儀軌）	文殊師利菩薩六字呪功能法経 （文殊師利菩薩六字呪法）	大菩提心隨求陀羅尼一切仏心真言法
不空　訳	智慧輪（唐京師満月）伝	—	中天三蔵阿地瞿多　訳
正蔵一九	（ナシ）	正蔵二〇	（ナシ）
『大日経』や『金剛頂経』をもとに（姚秦）鳩摩羅什訳の『法華経』を儀軌化した（唐）不空『成就妙法蓮華経王瑜伽観智儀軌』を承けて、法華曼荼羅の建立を示し、そこに配置される諸尊の尊形や効験を詳しく説いたもの。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	智慧輪訳。真言密教における曼荼羅建立の作法を記したもの。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	六字の真言をもつ文殊菩薩を本尊として滅罪・除病等の祈願に修する六字文殊法について述べたもの。文殊菩薩の六字呪の功徳と、造壇法、画像法と呪法とが説かれている。訳者不詳。（北魏）菩提留支訳『六字神呪経』や、（唐）阿地瞿多訳『陀羅尼集経』巻六「文殊師利菩薩法印呪」の異訳がある。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	（唐）阿地瞿多訳。如来がその内証本誓を幟幟する朱印の法を示し、以て大衆に真言を説述したもの。同一経典の異訳として（北魏）菩提留支の『仏心經品亦通大隨求陀羅尼』がある。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。
・「威儀形色経」とも。『天台目録』六七九頁中、『青蓮院目録』三〇函に名称確認。 ・『図像集』に名称確認。 ・谷大本には対校のあり。宝寿院本と一致するか。	・般若心経の広本を訳したひとりとして智慧輪の名がある。『宋高僧伝』に智慧輪の名あり。 ・『新書写請来法門等目録』に名称確認。 ・『青蓮院目録』一七函に名称確認。	・『天台目録』七二四頁下、『青蓮院目録』二一函に名称確認。 ・『秘密儀軌目録』に名称確認。 ・『四十帖決』『行林抄』『渓嵐拾葉集』『三昧流口伝集』などに名称確認。	・『勘定前唐院見在書目録』『前唐院法文新目録』『入唐新求聖教目録』『八家秘録』『禅林寺入蔵目録』（昭法宝三・七五九頁上）に名称確認。 ・『白宝口抄』に名称確認。 ・『仏心経品亦通大隨求陀羅尼』の途中、正蔵一九・三頁中一行目からの異訳とされる。 ・この書の後半には「仏説大隨求心中別行秘密法（大隨求一切仏心別行秘密法）」「大隨求成道砕魔印」「隨求大護明王八大印」が付されている。詳細は不明。 ・『青蓮院目録』二二函に「隨求陀羅尼法」として名称確認。

	巻第九			巻第十		
	09-01	09-02	09-03	10-01	10-02	10-03
題名	金剛頂普賢瑜伽大教王経大楽不空金剛薩埵一切時方成就儀（普賢瑜伽経大楽金剛薩埵成就儀軌）	疫神歓喜陀羅尼経	仏説却温黄神呪経	五大明王義	観自在菩薩阿麽鹱法	釈迦牟尼如来拔除苦悩現大神変飛空大鉢法（空鉢儀軌）
訳者・著者	—	義浄 訳	不空 訳	観賢・空海・真然・一定	—	三蔵法師般若傳
活字・翻刻	正蔵二〇 続蔵二・九・四	（ナシ）	続蔵一・三・五	弘法大師全集	正蔵二〇	続蔵二・九・四
解説（大谷大学図書館古典籍データベースから引用）	理趣経所説の十七尊曼荼羅の成身、三昧耶、羯磨、供養の四会について、五字偈文の形式で説いたもの。訳者不明。（唐）不空訳『大楽金剛薩埵修行成就儀軌』などの異訳がある。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	（唐）義浄訳。古代印度の拘尸那城で病に苦しむ者に、受持すれば疫病を除くという疫神歓喜陀羅尼を説いたもの。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	疫病を除くための神呪を説いた経典。（唐）不空訳とあるが疑義があるとされている。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	降三世・軍荼利・大威徳（焔曼得迦）・金剛夜叉・不動の五大明王の名字・相好・内証等についての秘義を説いたもの。作者は観賢・空海・真然・一定の四説がある。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	誦ずれば観自在菩薩を観ずるという阿麽鹱真言とその功徳、供養法、観自在菩薩の画像法を説いたもの。『阿麽提観音儀軌』等の呼称がある。訳者不詳。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	（唐）般若の伝。釈尊の飛鉢法について記したもの。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。
備考	・『正蔵』二〇、『続蔵』二、底本は日本続蔵経。奥書までほぼ一致する為、同一系統の書写本か。 ・『金剛薩埵一切時方成就儀』として『青蓮院目録』二一函に確認。	・『天台目録』一二二八頁上、『青蓮院目録』二七函に名称確認。	・『天台目録』一二二八頁下、『青蓮院目録』一七函に名称確認。 ・参考論文あり。 ・『勧修寺大経蔵聖教目録』に名称確認。 ・国文学研究資料館にデータ確認。	・『天台目録』七六七頁下、『青蓮院目録』二六函に確認。 ・『諸師製作目録』『釈教諸師製作目録』『本朝台祖撰述密部書目』『諸宗章疏目録』に名称確認。 ・『薄草子口決』『大日経疏指心鈔』『宝帰鈔』などに名称確認。 ・当該本は乙本。	・『天台目録』七〇四頁中、『青蓮院目録』二二函に名称確認。 ・『正蔵』二〇。底本は仁和寺蔵本と東寺本。 ・『覚禅抄』『別尊雑記』に名称確認。	・『天台目録』一二二七頁下に『飛鉢儀軌』として名称確認、『青蓮院目録』一七函に名称確認。 ・京大に写本あり。 ・参考文献複数あり。

	巻第十一		巻第十二
10-04	11-01	11-02	12-01
金剛頂瑜伽蓮花部心念誦儀中略集開鑰要妙印	仏説呪媚経	宿曜護摩祀火法	大聖妙吉祥菩薩説除災教令法輪（大聖妙吉祥菩薩説除災教令法輪軌儀）（熾盛光仏頂儀軌）
—	—	超際大仙所説	中天竺国大那爛陀寺梵僧尸羅跋陀羅三蔵於興元府訳
（ナシ）	正蔵八五 七寺古逸経典研究叢書一	（ナシ）	正蔵一九 続蔵一・三・一
金剛界の五部（仏・金剛・蓮華・宝・羯磨）の蓮華部念誦における要義を引き、賢劫十六尊、及び外金剛二十天の真言を述べたもの。撰者不詳。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	無限の災厄をもたらす呪魅とその除法について述べたもの。諸菩薩や天帝等の勧請により、呪魅は退散生滅し、一切衆苦を除かれて解脱を得ると記す。撰者不詳。中国隋代までに成立した偽経とされる。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	（唐）尸羅跋陀羅訳。文殊師利菩薩が、首楞厳三摩地より立ち、一切如来の加持神力を承って随世方便を略説したもの。熾盛光仏頂の本誓に依り、除災の為に修する秘法である熾盛光法の本軌である。先ず除災法輪曼荼羅の建立を明し、次に熾盛光仏頂真言や仏眼印言等を説き、最後に簡単に念誦法を述べる。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	（唐）尸羅跋陀羅訳。文殊師利菩薩が、首楞厳三摩地より立ち、一切如来の加持神力を承って随世方便を略説したもの。熾盛光仏頂の本誓に依り、除災の為に修する秘法である熾盛光法の本軌である。先ず除災法輪曼荼羅の建立を明し、次に熾盛光仏頂真言や仏眼印言等を説き、最後に簡単に念誦法を述べる。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。
・朱書訂正多し ・『新書写請来法門等目録』Aに「金剛頂關瑣要妙印」として確認。 ・『勘定前唐院見在書目録』『前唐院法文新目録』、『入唐新求聖教目録』異本に名称確認。	・『天台目録』一二二八頁上、『青蓮院目録』一六函に名称確認。 ・別名『呪魅経』。各目録から偽疑経と分類。 ・『七寺古逸叢書』二に翻刻。宮井先生の解題あり。 ・守屋コレクションに敦煌本あり。 ・増尾伸一郎先行研究あり。 ・東京文化財研究所にガラス乾板として青蓮院所蔵本あり。 ・『大唐内典録』『大周録』『衆経目録』に名称確認。	・『天台目録』七九一頁上、『青蓮院目録』二九函に名称確認。 ・『八家秘要』（康保二年本）の諸護摩部の最後に名称確認。 ・『東寺金剛蔵聖教目録』に名称確認。 ・行林抄に『祀火法』の引用があるか一致するか。 ・大仙は辞典では確認できず。	・『勘定前唐院見在書目録』『前唐院法文新目録』『入唐新求聖教目録』、『新書写請来法門等目録』Aに名称確認。 ・『秘密儀軌目録』『諸儀軌伝授目録』などに名称確認。 ・『青蓮院目録』二一函に名称確認。『天台目録』では未確認。

	巻第十三	巻第十四		
	13-01	14-01	14-02	14-03
題名	大毘盧遮那仏眼修行儀軌	最上乗教授戒懺悔文	新集浴像軌儀（浴像儀軌）	白傘蓋大仏頂王最勝無比大威徳金剛無碍大道場陀羅尼略念誦法要（白傘蓋仏頂法）（白傘蓋仏頂瑜伽秘密要略念誦法合則上）
訳者・著者	沙門一行　述記	—	沙門慧琳撰集	—
活字・翻刻	正蔵一九	正蔵一八	正蔵二一	正蔵一九
解説（大谷大学図書館古典籍データベースから引用）	（唐）一行が仏眼法について述べたもの。不動・降三世・軍荼利・六足徳・金剛薬叉・馬頭・無能勝・仏頂・仏眼明妃の印明・観曼荼羅・大輪壇・界道・召請・閼伽・花坐・五供養・讃歎・加持念珠の二十一の作法を説き、最後に五色の意義を明する。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	（唐）不空訳。真言密教の受法の弟子が、菩提心戒を授かる時の戒儀の文。稽首礼拝、普供養、懺悔、懺悔滅罪、三帰依、五大願、受菩提心戒、懺悔文と次第する。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	（唐）慧琳の撰。（唐）宝思惟訳『仏説浴像功徳経』や（唐）義浄訳『浴仏功徳経』の所説により、インドの浴像法の次第とその功徳を記し、これを勧めたもの。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	白傘蓋仏頂の供養念誦法を明かしたもので、この印を結べば威力が備わり、今生、来世において如来力を獲得できるとされる。また、本儀軌は秘要を略集したもので、大法を望むものは阿闍梨について灌頂を受け、三昧耶を授けられるべきであると最後に記す。訳者不詳。平安前期の真言宗の僧円行の請来とされる。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。
備考	・「仏眼修行儀軌」として『天台目録』六六八頁上（イ）に名称確認。奥書も十一月～道覚までは一致。『青蓮院目録』二三函に名称確認。・『秘密儀軌目録』『諸儀軌伝授目録』などに名称確認。	・『天台目録』五六二頁下に名称確認。奥書も一致。『青蓮院目録』三四函。・『勘定前唐院見在書目録』『前唐院法文新目録』『入唐新求聖教目録』『諸儀軌伝授目録』など多数の目録に名称確認。・「受菩提心戒儀」とも。	・『天台目録』七九八頁下に名称確認。奥書も長承～雅祐までは一致。『青蓮院目録』一六函。・『恵運律師書目録』『八家秘要』『秘密儀軌目録』『諸儀軌伝授目録』『東寺金剛蔵聖教目録』などに名称確認。	・『天台目録』六六八頁上に名称確認。奥書も元永～良実までは一致。『青蓮院目録』一八函に名称確認。・『秘密儀軌目録』『諸儀軌伝授目録』に名称確認。

巻第十五				
15-01	14-06	14-05	14-04	
金剛薬叉嬢怒王息災大威徳神験念誦儀軌（金剛薬叉瞋怒息災大威神験念誦儀軌）	浄口業真言（加句霊験仏頂尊勝陀羅尼）	仏説寿延経	馬頭像法	
金剛智　訳	—	—	—	
正蔵二一　続蔵一・三・二	（ナシ）	（ナシ）	（ナシ）	
（唐）金剛智訳。金剛手虚空庫菩薩所変の薬叉金剛の形・大霊験真言・念誦法・呪詛法について述べたもの。四十歳未満の者修すべからずとの注意がある。また、巻末に口伝の根本大心真言を附す。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	尊勝仏頂尊の内証功徳等を説いた仏頂尊勝陀羅尼の功徳と真言、霊験について述べたもの。撰者不詳。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	除災、長寿の為に誦持すべき十七神の名を説いたもの。日本撰述の偽経とされる。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	馬頭観音の画像法・呪詛法、及び療病・乞食の印明・縛鬼・消脱姪・護身の呪を説いたもの。訳者不詳。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	
・『天台目録』に確認できず、『青蓮院目録』二四函に名称確認。 ・『秘密儀軌目録』に名称確認。	・正式名は『加句霊験仏頂尊勝陀羅尼』か。この名称で『天台目録』六六三頁中に確認。奥書一致。『青蓮院目録』吉水蔵一九函。 ・『正蔵』一九に収録『加句霊験仏頂尊勝陀羅尼記』とは異なるが、陀羅尼部分は一致。元は陀羅尼と併せてあったものか。『覚禅抄』『白宝口抄』などに名称確認。「浄口真言」の用例は『大阿弥陀経』などにあり。	・『天台目録』六八四頁下に名称確認。奥書は一致せず。『青蓮院目録』吉水蔵一六函。 ・『八家秘録』『作法集』『本朝文粋』に名称確認。 ・国文学研究資料館に三宝院流伝授切紙のひとつとして現存。 ・国文学研究資料館に三宝院流伝授切紙のひとつとして現存。	・『天台目録』七一一頁下に名称確認。奥書もほぼ一致。『青蓮院目録』吉水蔵二二函に名称確認。 ・『八家秘録』に名称確認。ただし『画馬頭像法』。 ・『覚禅鈔』内に名称確認。 ・『陀羅尼集経』六（正蔵一八・八三七頁上～八三八頁上）、何耶揭唎婆像法（正蔵二〇・一七〇頁下）のなか「画作像法」にほぼ近似するものあり。	

	題名	訳者・著者	活字・翻刻	解説（大谷大学図書館古典籍データベースから引用）	備考
15-02	甘露軍荼利大威怒王念誦儀軌	金剛智 訳	（ナシ）	（唐）金剛智訳。甘露軍荼利明王の尊形や、降伏・敬愛・息災・増益等の護摩祈願の修法について述べたもの。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	・『天台目録』に確認できず、『青蓮院目録』吉水蔵木箱二函に名称確認。
15-03	金剛頂秘密最勝教王降三世極秘密法要	—	（ナシ）	真言行の修行における念誦法について述べたもの。印相や真言、功徳、禁則などを記す。撰者不詳。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	・『天台書目録』増補／索引一一八頁下に鎌倉中期の高野山大学・寶寿院所蔵覚禅本あり。 ・『降三世極秘密法要』として、『天台目録』七六二頁下にあり。『青蓮院目録』吉水蔵二五函 ・図像部に多数引用あり。
15-04	降三世忿怒明王念誦儀軌	不空 訳	正蔵二一 続蔵一・三・二	（唐）不空訳。降三世明王を本尊とする降三世法を説いたもの。先ず降三世明王の形相や大呪等を示し、次いで降伏・息災・敬愛などの護摩法を説く。密教の経典儀軌を集録した『秘密儀軌集』の一。	・『天台目録』増補／索引一一八下に叡山・池一〇七二あり。『天台目録』七六二頁中に名称確認。『青蓮院目録』八一函に名称確認。 ・『秘密儀軌目録』に名称確認。

その文献群の一つとして書写されたものの、堂舎が無くなることによりその資料が流出したものと考えられる。

結

以上、大谷大学図書館所蔵『秘密儀軌集』について、その書誌情報と底本・伝来などを検討した。これらの典籍が『秘密儀軌集』として一群にまとめられた理由については、全体の構成を概観するならば、巻第二・第三は天部に関する資料、巻第三～第八、巻第十二～第十五は儀軌・法に関する資料、巻第九の一部に疫病に関する経典といったような整理が行われていると言える。しかし現状では青蓮院吉水蔵の密教典籍を広く書写・収集したことを指摘できるのみであり、個々の典籍の内容を検討することによって明らかになることに期待したい。雑駁な整理となったが、今後の研究に期待したい。[39]

注

（1）この『毘沙門天王秘密蔵王呪経』については、日本印度学仏教学会、『日本古写経研究所研究紀要』第八号で発表済み。日本撰述偽経であることを指摘した。

（2）不空訳。正蔵二一・二一五頁上～二一六頁下。

（3）波…『仏解』では「般」。

（4）『五大明王義』には二本あり、原本と考えられる甲本、増訂本と考えられる乙本がある。『秘密儀軌集』所収本は乙本である。

(5) 祀…『仏解』では「祝」。
(6) 大谷大学古典籍データベース（https://bib.otani.ac.jp/cat/）二〇二三年十一月一日閲覧。
(7) 比叡山の円仁が中国より将来した真言秘教曼荼羅道具等を安置した場所。
(8) 冊子本のことを指す「策子」のことか。
(9) 『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』（汲古書院、一九九九）では「にとはか点」とする。
(10) 『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』の第一六函七『牟梨曼荼羅経』の識語に久寿元年に「出羽阿闍梨」から奉受とあり、これと同一か。
(11) 「爾之波加点」はヲコト点の「西墓点」を指すか。
(12) 「本房点」はヲコト点の「仁都波迦点」を指す。『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』七二二頁参照。
(13) 葛川明王院蔵を指すか。
(14) 永暦は二年までしかない。誤写か。
(15) 三光院を指すか。
(16) 『昭和現存天台書籍綜合目録』（法藏館、一九七八）には確認できないが、『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』にはあり。
(17) 『七寺古逸経典研究叢書』巻第二「中国先述経典其之二」（大東出版社、一九九六）に翻刻あり。
(18) 『昭和現存天台書籍綜合目録』には確認できないが、『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』にはあり。
(19) 先述の通り、『秘密儀軌集』所収本は乙本であるため、乙本のみを参照。
(20) これらの目録については武覚超「慈覚大師将来典籍の保存について―『前唐院見在書目録』『前唐院法文新目録』―」（『叡山学院研究紀要』一七、一九九四）、小南沙月「円仁将来目録の研究―『日本国承和五年入唐求法目録』と『慈覚大師在唐送進録』の諸本の分析―」（『京都女子大学大学院文学研究科研究紀要　史学編』一五、二〇一六、URL: http://hdl.handle.net/11173/2248）を参照した。
(21) 原則、通用字体に改めた。
(22) これは経典自体に付される奥書。『秘密儀軌集』にも存在するため、傍線は付す。
(23) 貞元二～永承四年（九七七―一〇四九）。平安中期の天台宗僧侶。比叡山で台密を学ぶ。谷阿闍梨。
(24) 『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』六七〇頁。
(25) 『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』六七一頁～六七九頁。
(26) 『大仏頂成就方法決』（六五三頁下）、『不空羂索儀軌』（七一二頁）、『毘沙門蔵王陀羅尼法』（七七五頁）など。
(27) 『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』六八六頁～六八七頁。
(28) 『昭和現存天台書籍綜合目録』八四六頁中。
(29) 『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』二八頁。
(30) 『青蓮院門跡吉水蔵聖教目録』七七頁、一二四頁。
(31) 計二十五箇所。ただし一本「宝暦十三（一七六三）」の書写本がある（六〇八中）。同一人物とするには年代が離れ過ぎているため、別人もしくは誤植か。
(32) また、『東塔五谷堂舎並各坊世譜』（『天台宗全書』一九・九一頁上）のなかで、行光坊第九世として慧潤の名を確認できる。また『東叡山之記』（『大日本仏教全書』四四一頁中～四四二頁上）にも確認でき、元文元年（一七三六）に没すとあることから、時代は一致するが同一人物かは不明。
(33) 計九箇所。
(34) 『昭和現存天台書籍綜合目録』七四六頁下。
(35) 七二〇頁。
(36) 『天台宗全書』二四・一六五頁～一六七頁。
(37) 『阿沙縛抄』：正蔵図像部八・七四六頁上、七六九頁上ほか多数。『行林抄』：正蔵七六・一三一頁上、一五二頁下ほか多数。
(38) 「早稲田大学図書館蔵教林文庫目録稿」（『国文学研究資料館文献資料調査研究報告』第六号）

(39) なお、巻第二所収『毘沙門天王秘密蔵王呪経』は、七寺本を底本とした翻刻を本誌に掲載しているため、そちらも参照されたい。また、本研究にあたり、資料熟覧・調査の機会をいただきました大谷大学図書館様に、この場を借りて深く御礼申し上げます。